

平成25（2013）年度 法学研究科博士課程前期2年の課程  
入学試験問題（一般選抜）

科目名 商法

問1

取締役の第三者に対する責任（会社法 429 条）にいう「第三者」に株主が含まれるかどうかの問題となるのは、具体的にはどのような場面か、簡潔に答えなさい。また、そのような場面について、①株主が第三者に含まれるべきであると解する理由として考えられるもの、また反対に、②株主が第三者に含まれるべきでないとして解する理由として考えられるものを、それぞれ説明しなさい。

問2

株式譲渡自由の原則について、会社法が同原則を採用している趣旨を、株主有限責任の原則との関係で説明しなさい。また、株式譲渡自由の原則の例外として、わが国の会社法上は、①法律による株式譲渡制限、②定款による株式譲渡制限、③契約による株式譲渡制限が存在するといわれているが、①および②について根拠となる会社法の条文とともに簡潔に説明し、③について従業員持株制度との関係で利用されている契約の内容を簡潔に説明しなさい。